

## 会 議 録

会議の名称	こまき新産業振興センター運営協議会					
開催日時	令和7年8月4日(月)午前10時00分～午前11時30分					
開催場所	小牧市役所本庁舎3階 301会議室					
出席者及び 欠席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>○出席者</p> <p>森岡孝文（中部大学 経営情報学部 教授）</p> <p>石亀一郎（中小企業基盤整備機構 中部本部 企業支援部長）</p> <p>渡辺裕香（あいち産業振興機構 理事長）</p> <p>矢橋英明（株式会社関ヶ原製作所 代表取締役社長）</p> <p><b>【新産業振興センター】</b></p> <p>金田 堅 （こまき新産業振興センター センター長）</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>石川 徹 （地域活性化営業部長）</p> <p>伊藤加代子（地域活性化営業部次長）</p> <p>久田雅樹 （商工振興課長）</p> <p>岩下貴洋（商工振興課 新産業創出係長）</p> <p>納口暖加（商工振興課 新産業創出係主事補）</p>					
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否	傍聴定員	3名	傍聴人数	0名
会議次第	<p>1 令和6年度事業実績について</p> <p>2 令和7年度事業計画及び活動実績について</p> <p>3 その他</p>					
問合せ先	小牧市役所 地域活性化営業部 商工振興課					
会議内容	別紙1参照					

## 会 議 内 容

**<開会>**

あいさつ

**<議題>****(1) 令和6年度事業実績について**

- ・ 金田センター長から資料1に沿って説明。

**○主な質疑****【渡辺委員】**

- ・ 名古屋工業大学の学びあいプロジェクトというのは、学生の単位取得プログラムの1つということか。

**【金田センター長】**

- ・ 単位取得プログラムではなく、学生と中小企業、教授など、プロジェクトに係る全ての方が協働で、中小企業の抱える課題の解決に向けて学び合うことを目的としたプロジェクトである。
- ・ このプロジェクトを市内中小企業に周知をし、応募を募ったところ、6社が手を挙げ応募し、そのうち5社が採択されたということである。

**【石亀委員】**

- ・ 資料1の2ページ目「1.方針 KPI 結果」について、J-GoodTech等マッチング件数は15件とあるが、この実績はJ-GoodTechのどの段階で、実績として数えているのか。

**【金田センター長】**

- ・ 市内中小企業がJ-GoodTechに登録し、オファーをかけた段階でカウントしている。
- ・ J-GoodTechでのマッチング支援というのは、私が就任する前から、当センターで実施していたものであり、そのカウント方法は引き継いでいる。

**【矢橋委員】**

- ・ 中小企業の経営者にとって、セキュリティや価格転嫁、生産性向上など、喫緊で取り組む必要がある課題を捉え、精力的に活動され、非常に中身が濃く、成果を上げられていると思う。

- ・ また、生成 AI 関連も含め、課題解決に向けた取組みは、中小企業の経営者にとって容易ではない。それを後押しするような活動については、今後も必要であるため、継続していただきたい。
- ・ 1つ伺いたいのは、今後の課題である。就任されてから1年間が経過し、活動の中でお気づきになった、中小企業への支援をさらに充実させるための課題があれば、教えていただきたい。

**【金田センター長】**

- ・ 支援を行う側として感じる中小企業の最大の課題は、開発・イノベーションである。私も前職から開発に携わってきた身であるため理解できるが、中小企業にとって、新事業や成長産業に進出するのは簡単ではなく、一歩踏み出すための機運も低いように感じる。
- ・ また、昨今はアメリカの関税の影響もあり、自動車産業関連も非常に厳しい状況になっている。そうした状況に対応するためにも、マッチングなどの販路開拓支援からはじめ、新事業・新商品開発の支援にも拡大、機運を高めていくことを、今年度は方針として進めたいと考えている。

**【森岡会長】**

- ・ 名古屋工業大学の学びあいプロジェクトのお話があったが、これは具体的にはどういったもので、何を目的にされているのか。

**【金田センター長】**

- ・ 一方的に教授が生徒や中小企業に教えるのではなく、3者が協働して学び、中小企業の抱える課題解決のための方法を見出そうというものである。
- ・ 3年間という長期的な視野のもと、取組内容や連携先の変更もあるかもしれないが、3者に学んでいただければと考えている。

**【森岡会長】**

- ・ こういった取組みは、学生にとってもインターンシップにもない学びを得ることができる、良い取組みである。名古屋工業大学の学生は大手企業に就職する機会が多いため、少しでも小牧を含む尾張地域に呼び込むきっかけになればと思う。
- ・ しかし、中小企業の求める理想が高く、このプロジェクトから満足する結果を得られないのではないかと、その点が懸念される。

**【金田センター長】**

- ・ 中小企業が利益追求のみに注力しないようにする必要があると、考えている。

- ・ また中小企業にとって、それが無駄なものであっても、今まで踏襲してきたことを変えるのは難しく、結果的に無駄に見えてしまうことがイノベーションを生み出さない原因でもある。
- ・ このプロジェクトを通して、学生や教授からの新しい視点を取り入れることで、そうした無駄に気づくきっかけにもなればと考えている。
- ・ 小牧市には、中小企業のための様々な補助金制度があるため、これらを中小企業に活用していただきつつ、商工会議所とも連携して、他の中小企業へ横展開する流れをつくっていきたい。

#### 【森岡会長】

- ・ 運営に関しても、ノーコードツールである Kintone を使い、活動記録を一元管理することで効率的な運営をされていると感じた。

#### 【金田センター長】

- ・ 当初は Excel で管理をしていたが、細かいミスが多く苦労していた。そんな中、昨年度から就任したコーディネータの提案で Kintone を導入した。
- ・ 費用が安く、別のデータへの加工も容易にできるため、使いやすく、活動の管理がしやすくなった。

#### 【森岡会長】

- ・ 補助金制度も充実しており、商工会議所との連携も上手くされているため、今後も継続していただきたい。

#### (2) 令和7年度事業計画及び活動実績について

- ・ 金田センター長から資料2に沿って説明。

#### ○主な質疑

#### 【渡辺委員】

- ・ デジタル化支援補助金について、1つ伺いたい。
- ・ 今年度から、1事業者あたり1申請までという申請回数制限をなくし、複数回申請が可能になったということだが、行政という公の組織は、幅広く、より多くの方に支援がわたるようにすることが一般的であると思う。今回の改正は、どういう意図でされているのか。

#### 【事務局】

- ・ 昨年度から、金田センター長にご就任いただき、これまで週1回実施されていたミーティングに、市も参加し、商工会議所、こまき新産業振興センター、市の3者で行っている。
- ・ その中で、センターのコーディネータから、展示会に訪問された話や、AIなどの新しい技術に関する情報を共有していただく機会があった。
- ・ その中で、私たち、補助金の制度設計をする側として、市職員である

我々も、新しい技術やサービスを把握し、その状況に応じた補助メニューにしていく必要があると考え、展示会に足を運ぶようになった。

- ・ そうした中で、月額利用料数万円から導入できるサブスクリプション型のサービスが多くあることに気づき、1事業者あたり1申請という申請回数制限があると、そういった優良なサブスクリプション型サービスの導入が後回しになるということが懸念された。
- ・ そうした懸念点を週ミーティングで共有するなかで、意見を頂戴するとともに、市として検討をした結果、上限金額は100万円に維持しつつ、申請回数制限を撤廃する形に運用を変更した次第である。この変更により、市内中小企業のデジタル化への一歩、スモールスタートを後押ししたいと考えているところである。
- ・ 繰り返しになるが、市としては、中小企業の皆さんには市内で事業を行い、発展していただきたい。それを後押しするためにも、世界的情勢も踏まえつつ、新しい技術やサービスを把握し、その都度補助金制度の運用の仕方を変化させていくことは、重要だと考えている。

#### 【渡辺委員】

- ・ 行政という立場としては珍しく、非常に画期的な方法であるため、他の行政自治体にも発信していただければと思う。

#### 【石亀委員】

- ・ 昨年度に引き続き、伴走かつ対面で支援をされているのがよく理解できた。
- ・ また、J-GoodTech について、登録企業の多くは登録をただけで終わってしまうのが実態である。重要なのは、登録の次のアクションであるため、こちらの支援も、中小企業にしていいただければと思う。
- ・ 我々の組織には、4人のコーディネーターがいるため、ページの作成などの支援をさせていただくことが可能である。
- ・ また、中小企業の課題でもある価格転嫁について、昨年より、原価や適正価格を把握できるシミュレーションツールの運用を開始した。今年はさらに内容を充実させていきたいと考えているため、ぜひご活用いただきたい。

#### 【金田センター長】

- ・ J-GoodTech については、今後ご協力をいただける機会があると思います。
- ・ 価格転嫁のためのツールが様々にあることは、承知している。中小企業と面談する中でそういった要望があった際は、紹介させていただき、支援をしていきたい。

**【矢橋委員】**

- ・ 価格転嫁については、中小企業にとって取り組むことが難しい課題であるため、今回の伴走支援のように、一步踏み込んだ支援を今後もしていただきたい。
- ・ また、中小企業にとって最大の課題は、採用と人手不足である。そういった意味では、名古屋工業大学の学び合いプロジェクトについても、1人でも採用に繋がればと思う。
- ・ 中小企業が、特に大手企業に存在する役職定年を迎えた方を採用するための支援もしていただきたい。長年培った技術や知見を持ち合わせている彼らとマッチングし、採用することができれば、中小企業にとって大きな戦力になるに違いない。

**【金田センター長】**

- ・ 価格転嫁については、成功させるためには中小企業自体の魅力、競争力を向上させることも必要だと考えているため、今後も新商品開発などの支援をしていきたい。
- ・ また、役職定年を迎えた方と中小企業のマッチングについても、今後取り組んでいきたい。

**【森岡会長】**

- ・ 中小企業の中には、新たなイノベーションを生み出したとしても、どうビジネスとして展開すれば良いか分からないというところもあると思う。こういった企業を支援するために、知財戦略セミナーを開催し、大企業と上手く連携するための方策も伝えていただけると、イノベーションを生み出そうという機運も高まると思う。
- ・ 中小企業の技術、イノベーションは一見小さく見えても、大きなイノベーションである可能性を秘めているため、特許を取得して終わりではなく、いかに活用していくかを、中小企業の方々に伝えていただきたい。

**【金田センター長】**

- ・ 特許について、完全には理解しきれていないのが現実である。
- ・ また、イノベーションの重要性についても、何度も訴えかけていく必要があると思う。頂いたご意見をもとに、さらに良い支援ができないか、検討してまいりたい。

<閉会>